

光赤天連シンポジウム： 2030年代の戦略的中型 をどうするのか

光赤天連将来計画検討専門委員会
(世話人代表：松田有一、本原顕太郎)

獲得目標

- ・日本の光赤外コミュニティとして2030年代にどのような光学赤外線宇宙望遠鏡が必要かを議論し、将来の戦略的中型ミッションへの道筋を探る。

そのために本シンポジウムでは

- ✓2030年代の光学赤外における科学テーマを概観する（初日）
- ✓国内外の各種衛星計画の動向を共有する（二日目）
- ✓日本としてどのようなサイエンスを狙うのか、光赤天連として本当に戦略的中型をやりたいのか、やりたいならどのように実現可能な計画を作っていくのかを議論する（二日目）

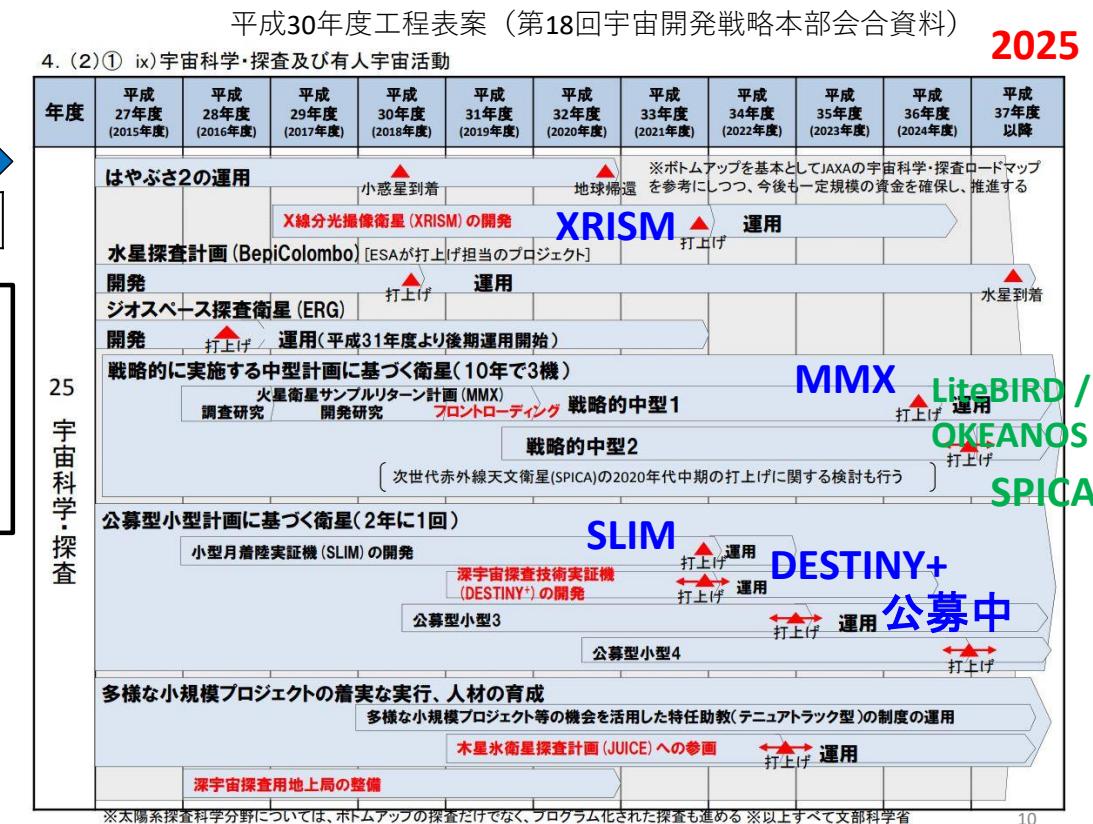
宇宙物理GDIが発足し、議論が本格化する2022年度の早い段階には意思統一が必要

光赤天連とこれまでの戦略的中型

2019年度の山田さんの講演スライドより (<http://gopira.jp/sym2019/1-1-Yamada.pdf>を参照)

- 光赤天連のコンセンサスとしてSPICAを推進していた（2013年に光赤天連から声明）
- 工程表にも「次世代赤外線天文衛星（SPICA）の2020年代中期の打上げに関する検討も行う」と明記
- しかし2020年10月に検討中止（2021年度シンポでの金田さんの講演、本シンポでの野上さんの講演）

戰略的中型

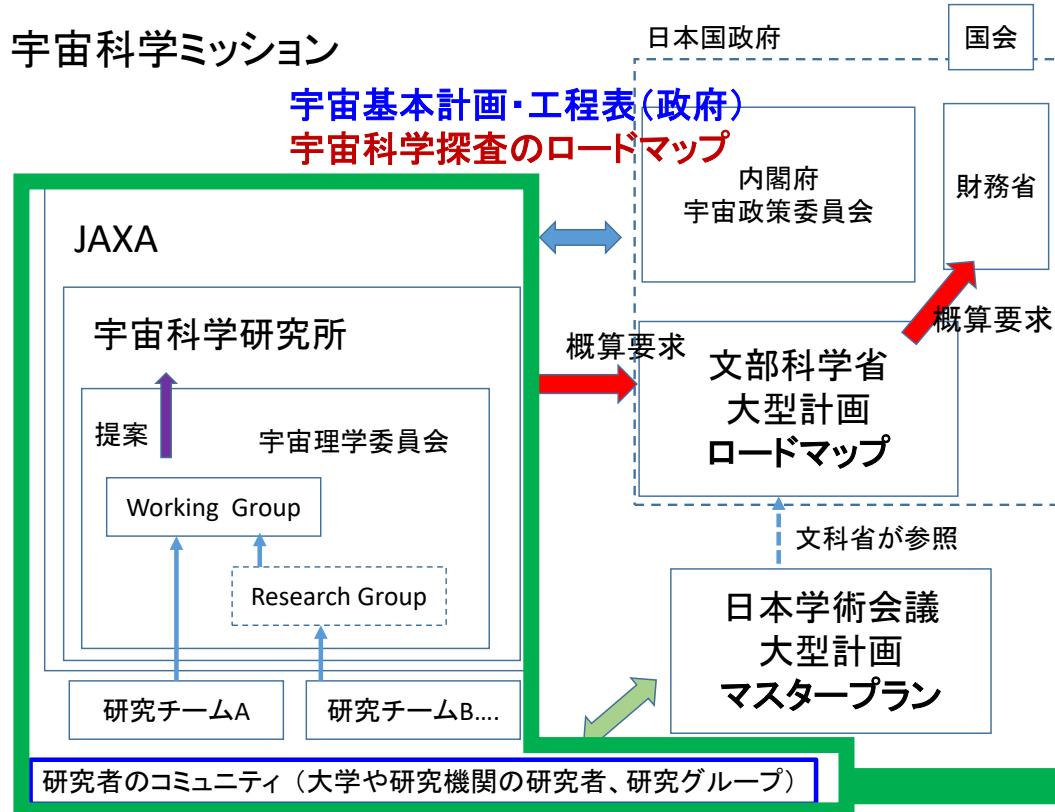


これからの戦略的中型

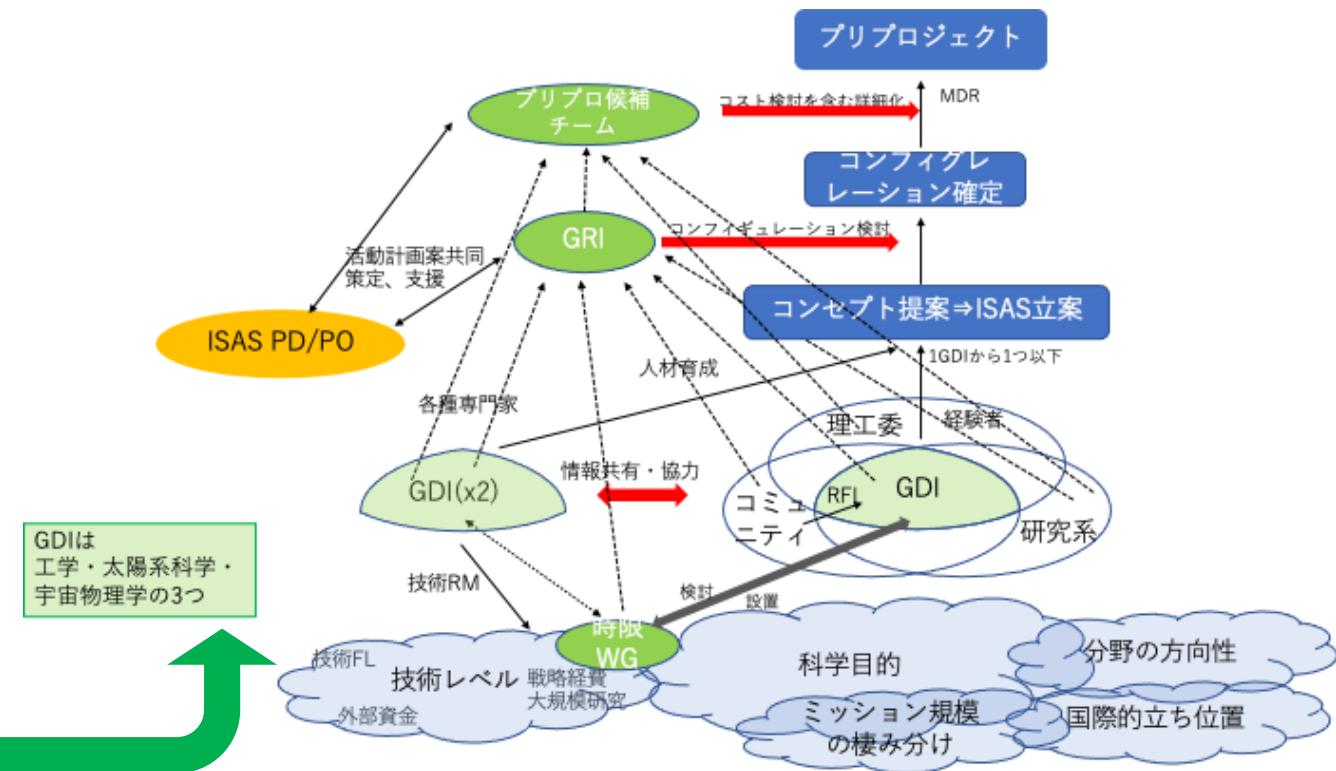
本シンポでの山崎さんと上野さんの講演 (<https://www.isas.jaxa.jp/missions/documents/index.html>を参照)

- これからの戦略的中型ミッションの立ち上げに関する提言
- 宇宙科学コミュニティと宇宙科学研究所の開かれた関係のもとで「戦略的に」立案を行なうべきもの
- プロジェクトをマネジメントする意識を全てのプレイヤーが、それぞれの役割に応じ持つ必要

これまでの立ち上げ方



これからの立ち上げ方（宇宙研内 + コミュニティ）



宇宙物理学分野とこれからの戦略的中型

2021年度の山田さんの講演スライドより (http://gopira.jp/sym2021/3-16-Yamada.pdfを参照)

- ・ **宇宙物理学分野**においては、10年で1機(あるいは、~20年で~3機)の想定が妥当。
- ・ 「戦略的立案」に乗るために、**宇宙物理学分野**としてのコンセンサスが重要。
- ・ 「**宇宙物理学分野**」としての次期の基幹計画を含む ビジョン(ロードマップ)の策定・更新を期待。

戦略的中型



(3) 宇宙科学・探査による新たな知の創造

